



[令和 7 年 5 月 14 日 定例会発表要旨]

さいはてのふだん記 「常呂」の熊まつり（昭和 26 年 1 月 13～15 日）

手稲郷土史研究会、特別顧問 茂内義雄

常呂の熊まつり 「植松家 3 代の語り」

私の同級生で「小学生の頃、親と熊まつりを見にいった。もうこの事を知っている人も少なくなってきたので、今のうちに記録として残しておきたい。」この事がきっかけで記録にとどめたいと決断した。

「構想を練り、植松家 3 代の語りをベースに世紀の熊まつりを体験した方々（故人の聞き覚えも）に当たりながら文献資料の発掘に務めた。



常呂の熊まつり（熊送り）は今から 74 年前の儀式 「常呂は最後の熊まつりか？」

1951（昭和 26 年 11 月）進駐軍の命令で熊まつりは無くなる。

アイヌの人、布施平助、キンさんの家で仔熊を飼育しているのを知り連れていってくれる事から本題の始まりとなる。

昭和 26 年 1 月常呂の熊まつりは布施平助アイヌの働きで実現された。兄、弟が力を合わせて取り仕切った。儀式の祭り主はオホーツクに面した美幌町のアイヌコタン菊地儀之助エカシが務めた。山で生け捕りにしてきた、めんこい仔熊とも別れの日がやって来た。布施平助さんの住む常呂豊川のイワケシュ山の沢で厳冬期の 1 月、2 泊 3 日の儀式が始まった。米村館長著書の「網走市立郷土博物館業書第 3 号」から全文を引用させて頂く。

第 2 日目いよいよ今日、エペレを送る日だ、メノコ達は前日と同様にして熊檻を取り巻き乍ら踊り回る。再度エカシが熊に近づいて「エペレよ今お前をお願いすることをよく聞いておくれ、私達はお前を愛すればこそ苦勞をしのんで育ててきたのだ、今お前はもう立派によく成長したから、天なる父母に伝えてくれ。そして再び地上に来てくれ、より以上に親切にして盛大に送ってやるから、今日は快く私達の願いを聞いて静かに送らせてくれ。」こうした長々しい祈りが唱えられる。この後、檻から出された熊に矢を射りながら弱り果てた頃、セッカオニと称える約 3 メートルの丸太が持ち運ばれエペレはそれで首を絞め殺される。殺されたエペレはカムイサンの前にもち運ばれて飼育主から丁重な祈りがあげられる。

（子供は見てはならないと言われていた。）



イノウを背中に飾り付けられ
まつりの準備完了



祭壇に供えられ飾り付けられた熊

平取の例を見る

「平村万次郎さんの矢が怒り熊に放されて止めをさす。約10分位の間に5本の矢が放されて死亡。」とある。

10年後の昭和43年6月23日平取町で「古式豊かにクマまつり」と北海タイムスが報じている。文中に「…60本の花矢が放たれたあと、クマは150メートルほど離れたアベツの山へ連れて行かれ、そこから神のもとに送られた。

午後4時近く頭と皮だけになった熊は祭壇に祀られて儀式は終わり「まつり」が行われる」であった。

「熊まつり」の現況

1951年（昭和26年11月）進駐軍の命令で熊まつりは出来無くなる

1955年（昭和30・3・15日）田中敏文道知事が熊まつり禁止を通達。

2007年（平成19年4・18日）昭和30年の知事通達を52年ぶりに撤廃。

その他の熊祭りの実施

- ① S29年4月釧路国屈斜路で熊まつり【『熊祭』更科源蔵著 楡書房S30第2版】常呂の記録写真も掲載。
- ② S34・8・3 平取町義経神社境内で実施。【北海道警察機関紙北海警友『熊祭り』 吉岡玉吉著
- ③ S41・2・19 旭川市近文コタン、川村カネト宅でイヨマンテ【北海タイムスS41・2・20記事】

会員の濱谷義昭氏より関連として、手稲での熊の話をしていただきました。

濱谷さんのお父さんが熊を捕獲し、蓑輪さんに譲り、蓑輪さんが檻で飼育していた旨の話がありました。熊の皮を展示しました。



常呂なる茂内城を目指す旅（その1）

2025年4月24日～4月26日

石狩の国からオホーツクの常呂を目指すには、北見峠を越えるか、石北峠を越えなければならない。この度は、北側の北見峠を越え白滝に出る道を選ぶ。4月24日 朝7時にお迎えが来る。運転パイロットは林事務局長。愛車カローラの新車でハイブリット、平坦な道はモーター音のみのまごと静かな旅。途中上川で名物味噌ラーメンで腹ごしらえ、右に白雪をかぶった黒岳を見ながら水芭蕉の咲く石狩川源流部をのぼる。ここから北見峠を越えれば白滝だ。

令和5年、突然「北海道白滝遺跡群出土品」が国宝に指定された。3万年から1万5千年前の古代人が黒曜石を割って作った石器である。遠軽町埋蔵文化財センターの館長松村愉文氏から丁寧なご説明を受ける。照明を落とした室内に展示台だけに明かりが当たり、黒々とした大中小の尖頭器や細石刃の数々。我々が慣れ親しんだ縄文時代を超え、はるか遠く旧石器時代へと誘う。

常呂川の河口に史跡常呂遺跡はあった。この遺跡は縄文前期から縄文中、後期、続縄文、擦文、アイヌの時代へと続く遺跡で、現在も新たな発見が続いている正に生きた遺跡である。2つの展示場を東京大学の研究員の方が案内してくれた。整然と並べられた各期の土器群を見ながら縄文式土器のおさらいをする。玄関の前の展示場所に、12人が暮らせる広さをもつ竪穴式住居があった。半地下式の住居に屋根が張られ、冬期間はその梁の上が出入り口になると説明があった。縄文式の竪穴式と違い、その大きさに驚いた。まさにオホーツク人の営みであった。（次号に続く）



左から：若松、林、茂内、小野寺キミ子、
乙黒団長、沖田の各氏

HBC テレビ News 特集 「札幌空襲と手稲山鉱山」

5月9日のHBC News 特集「手稲空襲と手稲山鉱山」にて、元小学校校長小山田さん(96才)が昭和20年7月14日、15日に空襲を受けた軽川駅(現在の手稲駅)前にあった日本石油の製油所の状況をお話しされました。当時小山田さんは札幌中学(現在の札幌南高等学校)の生徒でしたが、学徒勤労動員で手稲山に終戦まで動員された当時のお話もされました。



当時のイメージ図

手稲西小学校（当時手稲鉱山特別教授場所）には、手稲鉱山資料室「鉱山の部屋」があり、児童の勉強の場になっている。



「鉱山の部屋」の展示

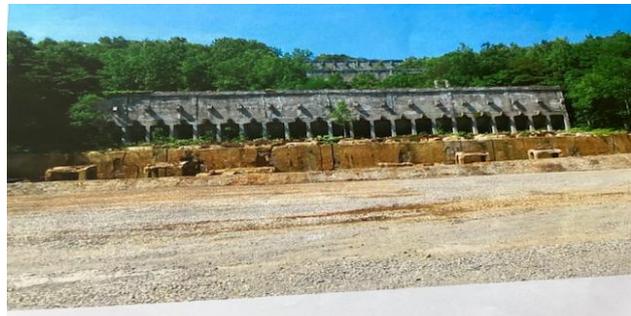
NHK 「シラベルカ」

5月13日のNHK ニュースの「シラベルカ」のコーナーにて「手稲石」と「手稲鉱山」について放送がありました。「手稲石という珍しい石があると聞いた」との質問が寄せられたことをベースに取材。手稲石が現在札幌市西区の「地図と鉱石の山の手博物館」に展示されています。

当時の手稲鉱山について当時書いた絵をもとに上記小山田碩さんより説明があり、現在の状況について、林事務局長が選鉱場の写真を示し「ていぬの部屋」で取材に応じました。



手稲石



手稲鉱山選鉱場(平成27年8月)

☆おめでとうございます！☆

5月16日、日本旅のペンクラブ主催の「旅の日」川柳の入賞作品の発表があり、当会員高木秀子さんの川柳が入賞作品に選ばれました。

「雪かきの体験ツアー 感謝付き」

次回定例会 7月9日【水】 18時15分 区民センター第一・第二会議室

発表内容「手稲と私」手稲ホワイト歯科医師 内山 明範氏

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていぬ」第206号 令和7年6月11日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：川上義昭・菊池博行・伊藤政克

❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinenorekishi@gmail.com 担当 菊池 博行